

コソボの難病男児 金沢大で治療へ

AMDA 仲介

国際医療ボランティアA

MDA (本部・岡山市榎津)

に三十日までに入った連絡

によると、難病に侵された

ユーゴスラビア・コソボ自

治州在住のアルバニア人の

男児が来日し、金沢大病院

で治療することになった。

AMDAによると、男児

はネジール・シニックちゃ

ん(三)こ。コソボ紛争による

北大西洋条約機構(NATO)

○軍空爆前に、乳幼児の網膜に起る悪性腫瘍(しゅよう)の「網膜芽細胞腫(もうまくがさいぼうしゅ)」と診断され、三月三日にユーゴスラビアの首都ベオグラードで右目の摘出手術を受けた。

しかし空爆の激化とともにベオグラードに入る事が不可能になり治療は中

断。再発の可能性が極めて高いため、定期的な抗がん剤投与などの治療が必要だという。

コソボ自治州などで難民の救援活動をしているAMDAは、欧州各国政府や日本国内の医療機関に要請するなど、ネジールちゃんの受け入れ先を探していた。現在、ネジールちゃんは渡航手続きをしており、今月上旬にも来日する予定だという。

第5次チーム

あすから派遣

難民支援でAMDA

国際医療ボランティアA

MDAは三十日まで、コソボ難民支援へ看護婦ら三人による第5次チームの派遣を決めた。

三人は二、三日に相次いでユーゴスラビア・コソボ自治州と隣国のアルバニアに向かう。AMDAはコソボへの帰還難民を支援するため六月十八日から、アルバニアで活動中の医師ら五人をコソボ自治州プレズレン市に派遣。最近になって大量の難民が帰還していることから、メンバーを増強した。また、継続した支援活動のために、今月初めアルバニアの首都ティラナに支部を立ち上げる。